

全道展機関紙“ZEN”第9号 昭和57年8月10日発行  
 発行所 全道美術協会 事務局 〒061-21 札幌市南区澄川6条12丁目  
 渡会純价方 T011 (581) 2528  
 印刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501  
 編集委員 伊藤 寿朗 伊藤 俊子 岸本 裕躬  
 小関恵久子 谷内 丞 前野 昌市

# ZEN

## 全道展機関紙

# No. 9

### 第37回全道展



#### 苦節ノ第37回全道展

札幌市民ギャラリーに於ける初の美術公募展としての第37回全道展は、十一日間の幕を閉じた。当事者として安堵している反面、程々反省をしなければならぬのは常である。率直に言つて、今回は盛況裡とはいえず、昨年道立近代美術館での七〇%弱の入場者数に終った。当初から懸念した通り馴染のない地には訪れる客は少なかった。会期の延長(一日ではあるが)、時間の延長(午後七時迄)前売券の発売など色々工作は練つたが、結果として地の利には勝てなかった。他の要因も考えられる。一つに夏日和の好天が続き海水浴など行楽に出掛ける人が多かつたこと。客筋が違ふとはいへ『道博』が開催され、新聞報

道等そちらに眼が集中していたことなど幾つか考えられる。

営利目的ではない我々組織も、入場料は運営上大きなウエイトを占める丈に苦しい立場に置かされるのである。

これから我々団体は、只管に「札幌市民ギャラリー」の宣伝をしてゆかねばならない。尖兵の辛さであり、石の上にも三年の覚悟はいる。

動員数のこと許り云々したが、盛況と、好評とは異なる次元である。広くなつた会場(会場については後で述べるとして)にゆとりをもつて観賞が出来、全道展の持つ独特の熱気を充分察知したとの声を聞かされ、来館者には頗る好評であつた。今回は60号付加条件も取り除かれた勢もあり、一般の出品作はもとより会友、会員の作品も、ひと回り大型となつた。条件の悪い壁面も少なく見安くなつた反面、陳列後に見る作品の欠点も目についたことも確かで、大きさより質的向上も要求されるであろう。個々の作品については次頁以降担当会員が講評して頂いている。

前後したが搬入点数は、各部門間の増減はあつたが昨年とほぼ同数の九〇八点(点増)となつた。入選点数は昨年より二十四点増であるが、会場の拡張によるものではなく、従前通り厳選審査による結果ではある。今年から特に第二次審査(全会員による)では、作者名も公表せず進行された。部門別の詳細は図録(会員、会友、入選作全てを掲載)を参照して頂きたい。

ここで会場の市民ギャラリーの器について述べたい。北海道新聞紙上で竹岡和田男編集委員が「新しい会場をどうこなすかが当面の

問題である」と書いているが、確かに公募団体としては大きな課題ではある。しかし、敢えてその以前に、何故斯様なギャラリーが出来たのかを問いたい。このギャラリーの建設に当つて私共協会も期成会に加わり、積極的に運動してきたものではあるが、ほとんど具体的検討会もないままに完成し、多くの不都合を残し「工夫して使いなさい」では全くお粗末である。それほど根本的条件が欠如しているのである。看板の設置場所の設定がない。全館使用に当つての各展示室の流動性がない。搬入口が狭い。第一展示室がなぜそれほど高い吹抜け天井にしなければならないのか。照明が暗くなり、第一のみ水銀灯とし、あとの展示室はなぜ蛍光灯のみとしたのか。駐車場が無い。パネルが絵画展示用になつていない等、諸々とあげられる。

関係機関に申し上げたいことだが、今後単に器を作れば良いのではなく「百年の計」に立つて臨んで欲しいものである。

我々はこれからこれ等を克服しなければならぬ苦勞を負わされるのである。

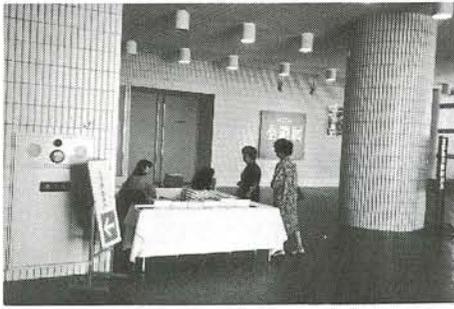
苦情の多い市民ギャラリーとなつたが、現業の方々には使用者の立場を考慮し、絶大なご協力を頂いたことは心から感謝したい。

これからも試行を重ねて、より良い展覧会にしてゆかねばならない。今後共着実に増大してゆく全道展の内部にもある。総合的見地からみつけてきた美術展であるが、拡大するにつれ、各部門別審査に移行する日も遠からず来そうである。活発な論議を交しながらも、初心を忘れない意気盛んな美術活動を展開してゆくことであらう。

(事務局長・渡会純介)

## 第37回全道展

## 入選作品寸評



## 〔絵画〕

武田忠子「待つ(1)」曲線を多用した構成を試みて成功。暗い空間は現代の不安を暗示して、或る心象風景となっている。卓上の静物が美しい。小林光人「流れるまま

に(8)」モノトーンに近い画面には悲哀感が充滿している。色調が少々暗い。情緒に流されて行かないように。福井路可「男のいる一静止された刻」奨励賞 内面性の強い作品。構成が堅固になってきた。睡魔と昏迷に襲われた男、その表現にも説得力が出てきた。彼の暗い内面をのぞかせているかのようなテーブルの影の描き方に、もうひとつ何か工夫が欲しい。高橋靖子「作品ピンク(8)」具象的な形が全く無くなり、画面には爽やかな微風が吹く。淡いヴァーミリオンとイエローのスパイスが効いている。福島孝寿「ジャンケルジム(2)」一昨年の作品と全く同構図だが、(2)は一層意図が明らかとなった。土井善範「ひとびと(8)」俯瞰的な構成を出てきたことにより空間に奥行きが出てきた。筆勢の強さや色彩への配慮にもかかわらず破綻が目立つのが残念。中村礼子「ふらいばんのうた(1)」やさしく暖かい歌がきこえてくる。配色にもっと冒險を。個々のフォルムにももう少し々の愛情を。デユボア康子「休息」手慣れた筆さばき。透明で薄塗りの色層の重なり効果が美しい。堀川勉「夏帽子の女」時間不足だったのか浅い印象を受ける。例年シュール的な扱いをする人物や手足など面白いのに、おしい。今野秀貴「MIZUHO(8)」エスキースとしてなら制作の意味も理解できる。大作なのに軽い作品となったことが残念。大沢あい子「クロスF」今年には、更に入念に描き込まれた黄と青の市松模様の布。不気味な雰囲気。

〔評〕木村訓丈

榎塚順子「孫たち」子供の顔などユーモアがありますが、ピカソ、タマヨなどの影がチラチラ見え、自分の形を追究して頂きたい。深谷栄樹「風景」力強いタッチは悪くありませんが、物をふち取る黒い線が説明になっていて、岡野修己「古いタンク」自転車の部分など情感があり、マチエールに良い神経を持った人です。ただタンクのデッサンなど弱い。今後、画面構成を課題とされたい。高野康平「集魚灯(8)」船の上部に描かれた魚は、この方のトレードマークでしょうが、これが無くても船の形だけ追究されたら如何か。浅野恵子「浜の女衆」女達のバイタリティは感じられます。前面の人物と後部の郡像との関係をもっと緊密にして欲しい。藤村正豪「白い浜辺」北方的色彩は賛成ですが、これも上部の風景と下部の人物に必然性が無い。池田緑「戴つてアリス」この題名、私にはとうとう理解出来ませんでした。とうとう画面の力が弱いということではないでしょうか。吉田政勝「万緑の中で」植物の一つ一つを説明しすぎていて、画面の緊張感がうすれる様に思います。兎をもっと下に入れた方が良いでしょう。中島巖「黙」耐える人々の群像なのでしょう。物を言いたげな白い目玉が、皆同じに見えむつかしい所です。浅川茂「箱」奨励賞 画面の隅々までよく描きこんで努力がにじんでいます。しかしそのことが逆に絵の広がりを弱める結果になる。部分にとらわれず、のびのびお描き下さい。

〔評〕八木伸子

高橋キク「猫のいる風景」楽しい画面だが散漫になった。主役の猫に構成のポイントを与えては。酒井俊行「室内一生と死」強靱なフォームと逆光を効果的に意図した構成はしたたかである。注目したい。成田勇吉「或るまどろみ」意欲的な画面、三人の男のポーズは面白いが、描写が単調。高橋永実子「犬のいる静物」色調に女性らしい詩があるが、もの実在感が乏しいのは構図のせい。長尾宇多子「工場風景A」素直な情感のある作品。美しい色彩を生かして更にたしかな描写を。原田恭子「牛骨のある風景C」描写力のある人、空間に息ぬきをほしい。後藤敬子「卓上の人形など」空間を感じさせる構成、曲線をもっと大胆に扱ってみてはどうか。仁木隆「冬の日」外景と室内の対比が面白い。スチームの描写に力を抜いた感じがあって気になる。宮下淳「室内I」たしかな構成で隙がない。力のある人だが画面づくりを意識しすぎた配色が作品を弱くしてはいないか。斎藤矢子「午後の室内」淡い色調で陽光を的確に生かした計算された構成。左足が気になる。〔評〕斎藤洪人

渡辺千香子「投げる」思い切りのよい画面の分割で球を投げる動勢を斜めの線を駆使して捕え快い。同じく動的な画面、千葉幸子「風に乗る」シーソーとブランコに乗る三人をリズムミカルな筆致でナイフを使わず筆で描いて好感がもてる。色の使い方を工夫するとうよくなると思った。熊谷充恵「夜明けの鳩舎」は淡とした佳きがあるが弱い。画面を強める焦点があってもよからう。松井多恵子「私の部屋」画面が強く感じられるのは良いが、気になるのは目、鼻、口を省略した顔。無機物化したものを表現したいのが狙いか。この絵を観て、ハーンのMUNAの現代化を連想した。吉岡美千代「TOMATO MOON 81」穏やかで温く好感がもてるが画面に締まりが欲しい。テーブル上のオブジェの配置を工夫すればよくなる。天下英子「朝」マチエールが美しい。二人の配置を考えてフォルムを工夫すればよくなると思う。清田探「閑日二人」構成もすっかり力作であるが輪郭線と背景の斜線が気になった。本保正行「海の幸」は小品だが画面に筆勢があり、力が漲つて佳い。筆で描ける人だ。川口總「倉庫」生活が感じられる絵だ。しかし、こういう絵は類形化している。それが問題だ。佐藤公一「北辺想」辺題に「眠」とついているが、それが目立たないのは何か意図があるのだろうか。右隅に母子像があるがこれに一番興味を覚える。斎藤嗣火「惑」は相当描き込んだ力作だが、左人物の乳房が脹らんでいる。それに人体の塊まりの表現が大袈裟過ぎた。色の濁りが気になった。〔評〕福井正治

本庄康伸「類」北海道新聞社賞 近代社会に生きる我々は、多少の差はあれ不安と不満の蓄積を抱く。椅子に腰かける若者は、その代表者であろうか。独自の構成が必要。梅津 薫「埋没する風景」自然破壊が進む都市の一室で怒る

青年。異様な不安感を抱かせて佳作。横山正義「破船②」北の海の暮色は、雪に吹き荒れ着氷する厳しさを謳おうとするが、概念的な枯枝の動きがマイナス。渡辺通子「親と子の図」母と父の人間性が語りかけてくる。窓外の旅行者は効果的。青、黄、赤の配色に一工夫必要。平間文子「冬のポビー」作者の人間の暖かさが伝わって、冬来る冷たさは感じない。ホワイトの価値が同一なのが気になる。清水昌光「ひと（一九二）」病室の家族達のなげき、折る深刻さを分割した線や色彩によって表出されつつある。縦構図も見たい。佐藤フサ子「食堂の友美」友美の動きが強調され大胆な描写がよい。明るい色調への進展を期待する。佐々木 治「赤い花と静物」光輝く静物達は躍動して美しい。独自の内面を打ち出すための課題は大きい。板谷論使「牛骨のある静物」牛骨等の配置の工夫は見られるが、一つ一つの物体の実感が乏しい。いっそうの厳しさを求めてほしい。渡辺貞之「スポーツライト」リズムに乗って踊る夜の喧騒を赤の色調で謳い上げている。やるせなさ、けだるさ等はなく若者達のエネルギーだけを感ぜた。

〈評〉坂口清一

のマットスが流動的に大構図となった。波田道則「メセタの女」再構成したデフォルメの面白さがある。色調もよいが、それだけに構築の厳しさを考えたい。田中ヨシエ「飯面の舎」壁面の解釈もよく、並ぶ飯面に風刺的な素外なユーモアがある。破調的な白の処理が不十分である。西辻恵三「鳥に乗って」マチュエルとフォルムの工夫から無機的な沈滞したものをねらう意図が伺えるが、更に絵具の質を幅広く駆使することを推める。二部静世「我が家」淡々と素朴に我が娘の生活を描いてヒューマンな温さがある。リアリティーの追求から育ってくるフアクチュールの進展を望みたい。平間正造「廃家のマネキンA」発想と構図に苦心のあとが感じられ、それが巧みに走らないところに詩情がある。色調に響きかほしい。斉藤康代「人形のある静物」デリケートな感覚でモデルを大切にみてヴァールの美しい絵だ。女性らしい愛情がある。高橋要「新友会」墓表が流れる。リズムのある形態は色調とともに叙情がある。思いきってアニメズムに向つては。

〈評〉望月正男

吉田康子「風の遊園地Ⅲ」（奨励賞）絵に向う姿勢、モノに対する解釈も大変よい。絵に厚味が出るばもつと良くなると思う。白が粉っぽく見える（白の使い方くふう）。阿部 忠「それゆけ若雞」人物の顔に表情あり、画面構成、色調よし。ただ画面全体を同じ調子で描くのは考えもの。表現の強弱を考えたらい。顔像の青色目ざわり。安木尚博「夜の女たちⅡ」絵に向う態度はよい。一つの色を主調して描くことはよいが青がナマナマしい。青の中の階調がほしい。白い線もかたい。佐久間留美子「三角の帽子」色調よく落付いた絵、床からバックにかけての空間処理が面白い。小野 司「折り2」色調大変良い。朱色を強く効かせたい。構図をくふうすれば、強い作品になる。次作を期待する。市川和恵「初夏」緑の色調よく画面構成もよい。表現が個性的である。ただバックの処理が気になる。横山昭子「鳥籠のある静物」落ついた室内静物、手馴れた表現である。それだけに可もなく不可もなし。もつと意欲的に、例えば青一色の画面にするとか、冒険を期待する。千葉征紀「静物B」このような絵は卓抜した描写力をもたないと感じ。感動を与える表現にならない。ただ物を並べて描いた、というだけでは駄目。坂田武夫「母子遊園」画面構成うまく、青の色調に暖色をほどよく取入れて、仲々絵づく

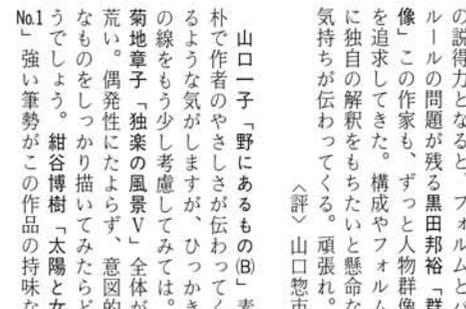
りはうまい。けれどなにか絵が弱い。馴れた仕事を馴れた手順で仕上げたという感じ。藤井高志「少女の予感」大画面にいろいろなものを配置して、少女の予感を漂わせるのが狙いだったようだが、残念ながらそこまで行かなかつたようだ。モノ（少女、馬等）が説明的だし、色調も甘い。次作を期待する。菊地ひとみ「春を待つ小犬と二人像」画面構成よくない。（人物の位置を考えて）人物が主か犬が主なのかあいまい。

〈評〉大友一夫

石原佑一「室内風景A」奨励賞 大作数点を持ち込んで気を吐いたうちの一点。画面全体にみなぎるエネルギーは旺盛。その稚拙さをただよわすリズムミカルな人物構成と色調が魅力。大橋弘子「街角」叙情的な雰囲気をもった画面だが今ひとつ造形的な訴えに欠ける。深瀬寛寛「ささぎ」力量ある常連の一人。ここ数年、人物群像特に顔の表情を追求してきた。背景の赤に妖しい魅力があるが、これからどう展開するか。福井弘三「聖堂への道」多くの人に描かれ、又撮影された場所だけに作者の苦労がしのばれる。やはり道をはさんだ左右の樹帯の処理が気になる。松本静子「Ratou」堅年なマチュエル、斜めの線を交錯させた緻密な画面。色彩に強烈な主張がでてきたら：と思う。安井タカ子「暗雲（少女と鳩Ⅱ）」人体を誠実に追求している人。今回はテーマ性に寄りかかっている造形上の緊張感が薄い。もつとデッサンの勉強をしてみては。山本美登理「対話Ⅰ」花と人物にカラージュ風の背景を配し、

〈評〉山口惣市

山口一子「野にあるもの(B)」素朴で作者のやさしさが伝わってくるような気がしますが、ひっかきの線をもう少し考慮してみれば。菊地章子「独楽の風景V」全体が荒い。偶発性にはたよらず、意図的なものをつかり描いてみたらどうでしょう。紺谷博樹「太陽と女No.1」強い筆勢がこの作品の持味な



のでしようか。それだけに的確な形態が要求されると思います。黒の色をきれいに。中丸茂平「茶ばたけ」新会友 様式化した画面の中で下部に描かれた人影はあいまいでこの場合必然性がなくいいと思います。高橋正敏「母子像(E)」奨励賞 構成はしっかりしていますが、色のつきが粗雑。特に全体の大部分をしめる赤の色にもっと神経を配って欲しかったですね。畠山直樹「ひとたち」モノトーンでよくいっていると思いますが、手なれた画作りが作品を弱くしているように思います。もっと内面的なものを突込んでみては。三浦正子「海の詩(2)」単純に凝縮された作者の気持が伝わってきます。次は自己模放などすることなくどんどん描いて行って欲しいです。篠木由美子「何処へC」叙情性を否定するくらいの気持から出発したらどうでしょう。そして描いて行くうちにいつか必ず作者の表現したい詩情をうたい上げることが出来ると思うのですが。土屋千鶴子「牛と人D」新会友 大きな作品がのびやかでいい。ただ画面構成がややマンネリなので今度は無難にまとめでいい思い切った冒険してみてもいい。棚橋永治「室内82-1B」今までの厚ぼったい白がソフトになり軽やかになったが余りすつきりすると作者自身の個性がうすれるような気がします。

〈評〉青木淳子

今西直人「牛E」マチエルを面白く作っているが、形、色ともに響きあつたらもつと良くなつただろう。画面のポイントになる形もほしかった。佐藤克教「都市No.7



夏の終りにC」左半分のキュービッグな部分は手慣れた高度の技術にみえた。この種の作品では水平線、垂直線の扱いに注意すべきだ。斉藤隆博「回想C」画面構成も色もなかなか良くできている。でもそれをもう一歩打破ることを望む。福井バク「室内C」(奨励賞)昨年比で空間が一段と大きくなった。物のデフォルメの方法。彩色とも魅力的だ。ただ一つ手の器用さに流れるのを恐れる。小林さやかと美しい絵だ。物をデフォルメする方法に統一性がほしかった。佐藤良紀「海辺の静物100-2」物の描写力は大きかった。しかし画面からさわやかな気分が伝わらない。多分絵具の使い方だろう。米沢史子「態(巻とう)III」面白い形態に目をつけたものだ。でも自分はこのモチーフで何を云いたいのか明確にしてほしかった。隅田重明「風」このテーマをするのにモチーフのトリミングにもつと

工夫が欲しかった。でも画面構成、色彩とも魅力的である。伊藤勝美「或る風景(II)」発想、表現技法とも面白い。残念ながら人物と空を別個のものにみえる。物を描写することも時には必要である。大泉康子「海」(佳作賞)静かで清らかで美しい。精神性の高さを感じる。この作品をみて、詩と絵画の美とを考えさせられた。

〈評〉谷内 丞

細井四治郎「月夜の詩」深みのある水の色、揺れる月の影が美しい。中橋修「朝の詩」奨励賞 画面の大半を占める空間の朝の光と人体の柔かい輝きが美しい。大きな画面に取り組んだ努力作で、次の飛躍を期待したい。野村美和子「VAOUI」いつもながらの力強いタッチと藍、茶、グレーの色調が心地よく、スツキリとしていて佳作である。ポーズもよい。加藤博希「嶋」一見版画を思わせる絵であるが独特の色彩と形は現代の不安を風刺しての表現なのだろうか。かたつむりの触角が妖しい光を放つ。棚橋れい子「若い人・赤紫」女性らしい柔かい感覚の表現で好感のもてる作品である。画面に配置された物や全体の色調もよい。水彩の作品も見たい。阿部ススム「心象の風景(A)」色がスツキリとして透明感があり構図も大きな広がり流れが感じられてよい。

〈評〉池田正之助

〈版画〉—木版—

瀬戸節子「遊園地」動きのある風景である。スライドさせた刷りに注意が必要である。二川原和博「回想」一見木版らしくない所が

良くもあり悪くもある。慎重な彫り線が美しい。菱和子「凍土」佳作賞 昨年につづきの受賞。制作に対する作家の努力いきみみが現らわれている。少しりきみすぎの感がある。相馬明「運河と工場」建物大きさがある、質感が乏しい色彩(絵の具)と刷の研究を。三寺良司「出勤のとき」前者と同様の問題と色数を少なくする研究を。宝賀寿子「海を見にきた蛙たち」作者の思考する複雑さが井の中の蛙達の行動をとめている。玉村和也「めばえ」孔版(贈写版)作家は少ない。来年の作品に期待する。

—銅版—

〈評〉尾崎志郎

北川佳子「沈黙の町NO13」奨励賞 地味な努力が認められたと思う。いま一つ版の層を掘りおとし深まりを見せてほしい。大川幸子「朝に向う」色彩に感性の良さを見せる。一寸不作法であつても高らかに自分の詩を。佐伯よし枝「温室・25時」たしかな描写力を身につけた様だ。構成も良い佳作。発想に独自性を求め、新しい展開を望みたい。杉浦篤子「二人のピエロー情景」微妙な所でモチーフと技術が噛合つてない感じだ。研究熱心な作家だから開眼するものに近いだろう。期待している。和田裕子「スペインの屋根」細密に描かれた画面には好感を持つ。透明感が表出されると、魔力をもつだろう。自然を見る事。山口敦子「朝日の昇る窓」色彩に挑戦する態度は好ましいのだが、色彩によって発言が不鮮明になるのでは困る。実力のある作家と考えるので残念。

道都さっぽろの中心に  
美と芸術のひろば

アートギャラリー さいとう

札幌市中央区南1条西2丁目④隣  
九一ビル2F T 011(222)3698

オーク画材

札幌時計台  
ギャラリー

〒060札幌市中央区北1条西3丁目  
札幌時計台文化会館 ☎261-8971

洋画・日本画材料

大丸藤井  
セントラル

札幌・南1西3

佐藤まゆみ「11月」ユニークな視点を持った作家だと思ふ。調子の音階を広げると、成果が上るのではないかと期待できる人だ。岡本早百合「SIMON」画面に粘りが出てきた事に好感を持つ。今一つ画面を整理して作家としての主張をしてほしい。三神ひさ子「森へ行く」NO2 プラームス泣いて「まずまず怪しげな彩光をはなつ描写は魅惑的であるが、マチエールが平板になったのは惜しい。原島典子「想い」甘みのあるモチーフには理解を持つのだが、絵画への解釈が甘いのが気になる。川端雪弘「NINGEN」すべてが未完成だとしても、若々しい剛直なポエジーは貴重である。古典を勉強してほしい。水落宮「卓上詩12 TWINS」新会友 真夏に白日夢を見る様なけだるい美しさである。バックが饒舌でないか。大井戸百合子「冬の坂道」新会友 この二、三年で急成長した様だ。力強い縦糸と、繊細な横糸で版を織り上げてほしい。浜西勝則「相関—WORKNO2」新会友 力量のある作家である。造形意識が明確なのが印象にのこった。

〈彫刻〉

〈評〉寺崎源治

中谷紀子「女の首A」清潔な感覚だが、正面と側面、後頭部との量的なつながりが悪く、もう一つ必然性が欲しい。本田泉「RIN」細部の量の割切り方が多少観念的だと感じたが歯切れの良い量と構成力は気持ち良く、表面処理と色は感覚の良さを感じさせる。田所陸男「WAKO」愛情のある大らかな量は良いが、各部分の相互的

なつながりが悪い。それがあると量に密度が出て来ると思ふ。竹林昌子「前傾一立」量的な構築性はなかなか強い。空間的な大きさを感じさせる。「屈」全道美術協会賞ポーズの良さが生きていて無理のない制作態度だ。可能性を孕んでいる。手の行方が無くなっているが、作つた方がよい。花田正雄「抱擁」制作意図はわかるが、良くある着想、技術的に言えば量の谷があいまいで構造を弱くしている。松隈康夫「MICHI」新会友、表面作りの面白さを感じる。材質と形態とが一致している。幸福の原型—濁らず濁れず」男女二体の簡素化したとり合わせは面白く、とくに胴体部分良し、二人分足四本変化なく有機性を欠く。小野健寿「朝」誠実な制作態度だがフォルムが生で構築性がいま、一歩と云うところか。北出真由美「トルソ」大らかな制作、量の密度が弱い。背面が良い。着色は如何。川田静子「トルソP1」一貫した生



真面目な態度は買すが、量としての動きにかけられる。手足のきり方方の位置が悪いので考えて欲しい。木下和美「トルソII」素直な制作態度だが量の解釈に今一つ積極性を。渡辺行夫「彫像12態」12個の一つ一つが全て形態の変化を見せ、木質の違う台座との組み合わせも面白い。永野光一「蒼空」大きさが良い。黒御影と金属のとり合わせ。金属部分が三つに分れているのが少しうるさい感じがする。高木順子「亜希」石膏に淡い着色、マチエールも色もきれいな仕事だ。解積はしているが量が部分的でスケールが小さくなった。台も彫刻の一部なので一考を。高木美智男「地空A」粗い肌の上下部分が、良く削られた危うい中空部分でつないでいる妙か。台石とのバランスも良かった。土井人魅「流麗」色、表面の質感は達者だが、フォルムが大ぶかみされず表面的な甘さに見える。上野雅路「リベカ」重量感のある形態は彫刻的で良い。ただ着色の色や悪く光った光沢は一考を要する。二部黎「芳野」フォルムはまとまって活き活きしているテラコッタ。子供の顔か？美しい色と材質感が出ている。「草の女」佳作賞、力作。フォルムがユニーク。顔面が魅力に欠けるのが惜しい。眼、鼻は彫り過ぎではないか？

〈評〉神田比呂子

森戸春樹(寡黙)球体の組み合わせでトルソを作つた意図は面白い。シメトリな構成が作品を単調にした。物理的安全性も一考を要する。高橋雅文(裸婦II)—奨励賞 年ごとによくなっているのはたのしい。気ばらず、素直にこれから

も進んでもらいたい。田辺三知子(M夫人)仏頭を思わせる素朴な木彫である。ただ頭から下が同じのみあとで、緊張感を弱めたのはおしい。徳田幸次郎(子ども)モデルに忠実に、小品ながらよくまとまっている。一度頭の中で対象を分解し、自由に組み立てることがこれからの課題。川辺由紀(うつむく女)乱暴に見えるほど荒らげつらな木彫。力強い作品。細部にこだわらず、大きなかたまりの一部と考えるように。増田邦博(陽炎)素直にまとめた作品だが、もつとマツスとしての量感を強調すべきだ。文学にこだわることはい。樹下知子(青年の首)たくましい作品。頭髮の表現に一考。長峰詠子(鏡の前)素材(かんしつ)をうまく生かしているが、上半身が弱いのが残念。中田千年(首下)素直でかわい作品。押上緋紗子(青年)しっかりした肉づけだ。台も作品の一部だということ忘れずに。田中隆行(翔)力強い作品。だが必然性のない穴が二三気になる。和田雅子(影子)胸から胸、胸から腰、脚への量の流れにもつと留意すれば、更に強くなつたらう。堀悦(トルソ)木を使つてトルソをよくマツシブにまとめた。右腰のあたりが一寸自然なのが残念。上田淳一(BLACK SOUL)がしりした作品。外山佳志子(女)裸婦立像をきれいにまとめている。造型的構成がこれからの仕事。阿部時彦(Brave)金属を使った数少ない作品の一つ。パイプに金色の球をのせたカーブが面白い。このカーブに対応するものが台部にほしかった。池田譜(トルソ)黒みかげを生かした力作。

も進んでもらいたい。田辺三知子(M夫人)仏頭を思わせる素朴な木彫である。ただ頭から下が同じのみあとで、緊張感を弱めたのはおしい。徳田幸次郎(子ども)モデルに忠実に、小品ながらよくまとまっている。一度頭の中で対象を分解し、自由に組み立てることがこれからの課題。川辺由紀(うつむく女)乱暴に見えるほど荒らげつらな木彫。力強い作品。細部にこだわらず、大きなかたまりの一部と考えるように。増田邦博(陽炎)素直にまとめた作品だが、もつとマツスとしての量感を強調すべきだ。文学にこだわることはい。樹下知子(青年の首)たくましい作品。頭髮の表現に一考。長峰詠子(鏡の前)素材(かんしつ)をうまく生かしているが、上半身が弱いのが残念。中田千年(首下)素直でかわい作品。押上緋紗子(青年)しっかりした肉づけだ。台も作品の一部だということ忘れずに。田中隆行(翔)力強い作品。だが必然性のない穴が二三気になる。和田雅子(影子)胸から胸、胸から腰、脚への量の流れにもつと留意すれば、更に強くなつたらう。堀悦(トルソ)木を使つてトルソをよくマツシブにまとめた。右腰のあたりが一寸自然なのが残念。上田淳一(BLACK SOUL)がしりした作品。外山佳志子(女)裸婦立像をきれいにまとめている。造型的構成がこれからの仕事。阿部時彦(Brave)金属を使った数少ない作品の一つ。パイプに金色の球をのせたカーブが面白い。このカーブに対応するものが台部にほしかった。池田譜(トルソ)黒みかげを生かした力作。

印刷の美を、私達は考えます

中西印刷株式会社  
札幌市東区東苗穂町505番地 TEL 011(781)7501

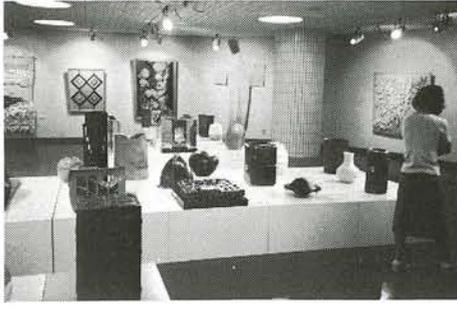
緑の空中庭園に囲まれた  
ギャラリー

大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目  
札幌大同生命ビル TEL 241-8271内88

ざんしんデザイン  
良心的な製品

株式会社 松山富縁店  
札幌市理小路5丁目 TEL(代)251-9000



上半身がちよっと弱いのが残念。本田清子(夫婦道祖)素朴な道祖神を考えたのだろうが、単純な形で上半身があった方が、素直で彫刻的になったのではないだろうか。田中勝宏(トルン)素朴をいかし、よくまとまっている。胸から右腕の切口がちよっと弱い。

〔評〕 本田明二

〔工芸〕— 鑄造・木製品 —

関原範子「芳菲」新会友 近年、七宝の色にも大胆な色えを見せられた。素材の扱いにも心配が見えられ造形的にすぐれた作品である。池田清一「波—静と動—」自分の想いを波に託し、大らかな形として制作したところに作者の意を感じる。福井伸一「流れる」単純な構成の中にも、どっしりとした量感を感じることが出来る。

今後ますます発展できるテーマでもある。中秋勝広「南の面影II」左右対峙した形態の中から伸びてくる中心部に、ある種の感動さえ

覚える。鑄造の可能性にもっと挑戦してほしいものである。藤枝勝雄「北の輝」木の素材をよく生かした作品である。今後の発想に一層期待したい。利一「裕」暖大に買ってみて、その意欲を大いに買ってみて、シンプルな形態の中に何をどう残すか、今後の研究としたい。立川岩治「象嵌透双木壺」労作である。作品に対する作者の情熱がうかがえる。球体からの発展も一つの方法である。

〔評〕 佐藤 靖

— 染織物 —

岩山テル子「ぼたん」友禪、新友会、着物のファッション性をよく理解した作品である。破綻を恐れず試行する制作態度が今後共続して欲しい。庄司光江「光彩(染)」アジサイの連作であるが染の技法を上手にこなした秀作である。型とローケツを使い分け、混色を防いだ色の工夫と布地を配慮した図案化は明るく現代的である。野崎南風子「GROWING(織)」ロープの強靱性・自由性・可変性をもっと強調したい。伊藤啓子「STOREAM(織)」羊毛の風合いをよく生かした作品である。室内の主要な壁面を飾るタピスリーに

適わしい吊具などを飾るタピスリーに。寺岡和子「深海の幻想(織)」主題にその意気込みを感じるが表現方法に一工夫欲しい。今井京子「走り(織)」毯をデザイン化は、作者の視覚を強調した作品。山崎澄恵「夕風(染)」片岸清恵「草木染織れ模様による袖の着尺(織)」大々、着物の実用性を他の角度から考

たデザインを期待する。

〔評〕 折原久左エ門

— 陶芸 —

横田恵子「灰釉扁壺」新会友、佳作 釉調、形ともよし、少し佳品。井上妙子「到PARTY」青と辰砂のバランスが良くとれて、伊藤紀久子「海鳴りの記憶I」肌調子が良い造型に一工夫を。伊藤純子「刺花菱紋花生」小じんまりと、まとまっている。白と大胆に。井田良二「線文乳白釉花瓶」ロクロも思いが創作に考えを。秋田清陶「灰釉菱紋壺」全体に良くまとまっている。吉田ナツ「流B」力強さがほしい。金子章「蒼流」佳作 来年に期待。川村昌保「楯目チタン楕掛つば」かたち、色調に工夫を。坂口桂一「旅路」この作品の場合のひびはマイナス、かたちにも勉強されたい。佐藤孝子「波状文六面壺」佳作 今後に期待する。佐久間弘子「象嵌絞焼メ花瓶」作品に対し象嵌紋が強い。高野陽子「紅炎」釉調かたち全体にまとまっている。武田律子「深海」少しでも線のもたつきは許されない。羽生田洋子「白釉壺」しゃれた作品、来年がんばって。野田静江「作品A」全体の少ししまりがない。松岡五郎「黒釉変型花生」口作りが強い。全体に心くばり。松原成樹「伊羅保花瓶」バランスのとれた作品。もっと大作を。諫早治雄「六角焼しめ壺連作。大地凍」大作をよくまとめている。

〔評〕 高橋武志

前売券、広くご協力いただきましてありがとうございます。未清算の方/至急代金、残券引渡しを、池田会計係迄お届け下さい。前売券 窓口 坂原

全道展・図録・ZEN等への意見・要望・質問など

● 図録写真は 全体に白っぽいできあがりです。予算の関係もあるのですが、業者を選べばもっと良い写真になるのでは。道展の図録と比較してみて下さい。

歌志内 本城義雄

● 10年振りで見ると全道展でした。彫刻、版画、工芸がこんなに見えるとは想像しなかつたこと、懇親会でいるんな人にあえたのも良いことでした。新築の市民ギャラリーは設計の上で多少疑問がありましたが、二階の休憩所はたいへんよろしい。安井賞展に可能な作数点ありました。

東京 田中忠雄

● 新しい会場で、ゆつくりとした展覧会でした。嬉しいことです。駐車場があつたら更によいと思いましたが無理ですね。

登別 諏訪英雄

● 全道展が終りホッとしています。水彩部門の出品が増えず残念です。しかし今年の入選作は皆さん頑張ってください。感謝します。惜しくも選外になられた方も、第38回展を目ざして頑張ってください。

札幌 池田正之助

● 新会場での全道展は楽しいものでした。上野の美術館に居るような錯覚を覚えました。

小樽 山下脩馬

● 第37回展も今日が最終日、市民ギャラリーの白い壁が明るく快

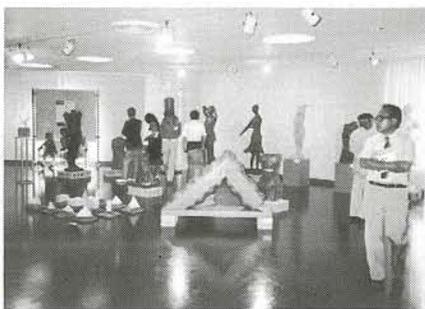
よい会場でございました。在札会員の皆様には会場の展示、当番の

☆第37回全道展図録残部があります。ご希望の方は全道展事務局に申込み下さい

送料 三〇〇円

第37回展一三〇〇円

(旧いものも有ります)



仕事を、担当なさり誠に感謝にたえません。七日、時間を作り出かけた私ですが、渡会さん始め当番の方にお会いして申し訳ないような感じになりました。地方会員と致しましては、なるべく会務の方に負担をかけないように心掛けると共に努力しなければと強く感じました。

室蘭 佐々間恭子

● 釧路の開催を希望する一人です。一般出品の多い今日、道東釧路の美術愛好者への理解を更に深める意味でも年に一度は開催すべきとなる作家の一部であつてはならない。底辺のいることを忘れてはならない。

釧路 阿部ススム

仲間のたより

● 7月4日苫小牧地方全道展出品者懇親会、合評会、小生宅で開催、19人ほど集まり盛会、北川会員の顔の見られないのが淋しかった。 苫小牧 浅野武彦

● 北川豊個展 市教委と市文化振興基金運営委の主催で、昨年企画で本年実現しました。たまたま本人発病、市立病院に入院中(三月末から面会謝絶)です。画集発行しました。彼の、この15年をふり返って、という記録と、わたしの彼についての、格闘の歩み、を併読されると、作者の成長のあとがよくわかります。 栃内忠男さんから序文をいただきました。

● 苫小牧 遠藤ミマン

● バリ展以来の国内展巡回中で、来春3月札幌を最後に8回目を終了します。

● かつての郷里の画友、竹川忠道作品展も無事終了、ホッとしている処。故郷を離れて久し振りで彼の作品と再会し、懐かしさと共に又新たな感動を自分と与えてくれた事を本当に嬉しく思う。そして生のなんと無情ではかなきことも、今、在道独立作家展出品予定の「風少女」に全力投球の毎日！ 石狩 木村富秋

● 編集の係を担当して12年になり、今年もようやく図録が完成して重責をはたしてほっとしています。このZEN9号をもって、編集の係を退くことになりました。長年にわたる皆様の御協力を心より感謝申し上げます。 札幌 岸本裕躬

● 先日会友の木村富秋さん宅へおじゃまし、暑さに負けず酒を飲み語りあいました。近所に画友がいることはおたがいの励みにもなり制作意欲もわいてきます。全道展図録にもアトリエ訪問が載っておりますが、近い将来二人のアトリエ訪問が可能になるようがんばりたいと思います。 石狩 川本ヤスヒロ

● 今年3月、36年務めた国鉄を退職、余生を室蘭の美術界の為に国鉄を度外視して、絵画教室、アトリエ・ムロラン(室蘭市常盤町1・10 TEL23・4456)を西村徳一会員と経営。教室は2階で1階を常設ギャラリーとして使用していますが、開店以来西村氏との二人展、小品57点陳列中、皆様も御利用下さい。使用料はまだ決めてませんが格安にしておきます。近い将来喫茶画廊にしたいと思案中。

● 室蘭 浅山咲知

● 帯広に十勝支庁の新庁舎が11月に完成するのでホールを飾る「壁画」を陶板で作ることにしました。当地の全道展から僕がグループのメンバーとなりましたが道展や新道展、そして無所属の作家6名で作業を進めています。デザインと模型づくり。めったにないチャンスなので全内投球で頑張っているつもりです。こ来帯の節にはぜひご高覧を：3米×5米の大きなものです。 音更 岡沼秀雄

● 例年の6月の個展が終了しましたが終ったら急に忙がしくなるようです。現在2冊目の絵本の制作に悪戦苦闘中、しかし動物に関しての専門家から生態や習性についてのいろいろ教えたいたたくのは楽しみです。北海道の自然と動物の組み合わせ、今年はおおほくちようをテーマにしています。 江別 手島圭三郎

● 第37回全道展前売券の窓口をさされて戸惑いながらも皆様の御協力により何とか大任が終えられそうです。しばらくなかったこの前売券は札幌近辺の会員会友に配られました。追加請求により売れる人、一部売れてあと返券の人、自己負担の人、一部自己負担で返券の人と色々でした。観客を動員するためと会内の事情もあるらしく、効果はさておき来年も続けるなら窓口が誰になるかわかりませんが、広く御協力下さいませようからお願いいたします。 札幌 坂原チエ

● 10月8、9、10日熱海、伊豆大島へ

2泊3日旅行の予定、20名程で行きますが同行希望の方ありませんか。

● 昨年12月個展の予定でしたが病気のため延期になり、9月に東京セントラル美術館の絵画館で個展を致します。

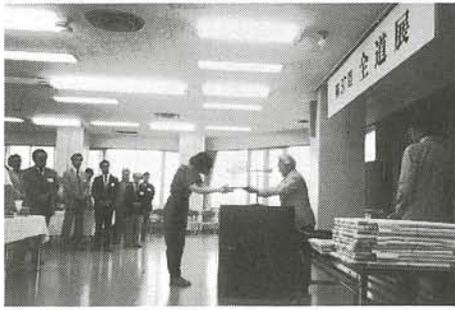
● 現在、自治研修所で道職員、市町村職員に対する研修を担当しておりますが、教養講座の一つとして美術(史)・スライド中心を設置するように努めています。行政の文化化」が叫ばれ、文化を改めて大

● 東京 小川洋子

● 9月27日から時計台ギャラリー一全館にて自叙伝作品等50点の展覧会を開催します。皆様の御来場をお願いします。

● 8月23日より大同ギャラリーで個展をしますので寸時を得て制作しています。

● 一月、娘のぼら死去に際しましてはなみなみならぬ御配慮を頂き、筆舌に尽



くせぬ感謝の気持ち一杯です。本当に残していただきました。貧しい作品しか残っていませんが、来春、札幌で遺作展を開く予定です。親馬鹿のせめてもの慰めと思っております。十月鶴川に引越しの予定です。

● 夏に強い自分は本当に生きていると言った感じが肉体も心のびと自由で羽ばたく想いです。鏡のなみところで、いくら自分の影を待たせても何も出て来ない。夏こそ素裸になって内なる自分の影をつかみ出そうと苦闘の毎日です。汗をふきふき鏡をみかくこの頃です。

● 多忙な毎日ですが今年の9月2日より待望の訪中研修員として敦煌、トルファン、ウルムチとシルクロードを取材することになりました。説明するだけではどうしても理解出来ないものを、この眼でたしめたい、そんな気持ちで準備をすすめています。 函館 秋山沙走武

● 日本現代工芸北海道巡回展を初めて札幌(伊デパート)で6月開催することが出来、関係各位はじめ皆様方の暖かな御支援のおかげで盛況裡のうちに終了できました。厚くお礼申し上げます。

● その1、全道展会場が毎年同じテーマを発表しながら、その中に、今年も又新たな秘密を発見できたのは楽しいことでした。又高橋キクさんの「猫のいる風景は実に愉快で思わず足を止めました。その2、過日来日した現役で活躍しているギタリスト者アンドレス・セゴビアは現在なんと89歳、今なお毎日5時間の練習を欠かさないとのこと。そして、「自分のスタイルをもたない芸術は価値がない」ときっぱり。その3、数年前から札幌在住の加藤玖仁子さんがポーランドのユニークな織の作家「アバカノイチ」を熱心に日本で紹介して、知られませんが、とうとう本人が来日し、スライドと講演があ

● 四月に彫刻会友の小野寺紀子さんが結婚され前野さんになりました。作品の発表は旧姓のまま、御主人は外国航路のお船に乗っていらつしやる方とか。おめでとーうございました。

● 歌志内 森谷 一

● 大小あわせて11の展覧会、やつと7つを消化しました。私に限って忙しいということは決していい事ではなく、その証証にお正月にひいた風邪がまだ治りません。

● 札幌 風 玲子

● 作品その他の収納のため二部屋をつぶしていましたが待望の小屋4坪が出来ました。これで手ぜまだアトリエも或る広さも確保され、気分もよくなりました。

● 札幌 小関恵久子

(仲間のたより)一般の方もどしどしお寄せ下さい。次回は来年の一月下旬頃までに事務局へ送って下さい。

企画・貸ギャラリー

ギャラリー予約受付中

キヤリ-ユリイカ

**EUREKA**

〒060 札幌市中央区南3条西1丁目 和田ビル2F ☎222-4788

個展グループ展案内

- 徳丸 滋個展 8/1~8/7 時計台ギャラリー (札幌)
- 彫刻家集団北方会第11回展 秋山沙走 武参加 8/5~8/10 今井デパート5F (函館)
- 近堂隆志個展 8/9~8/14 大同ギャラリー (札幌)
- 尾崎志郎個展 8/23~8/28 大同ギャラリー (札幌)
- 遠藤ミマン個展 9/6~9/11 時計台ギャラリー (札幌)
- 小川洋子個展 9/6~9/11 東京セントラル美術館 絵画館C室 (東京)
- 望月正男個展 9/21~9/26 大丸画廊 (札幌)
- 岩船修三個展 9/27~10/2 時計台ギャラリー (札幌)
- 菅野充造個展 10/4~10/9 東京銀座「樺画廊」(東京)
- 北山寛一個展 10/4~10/16 北2条ギャラリー (札幌)
- 騎の会 具象彫刻5人展 小野寺紀子 竹林昌子参加 10/7~10/12 アートギャラリーさいとう (札幌)
- 小川原脩個展 10/11~10/16 時計台ギャラリー (札幌)
- 竹岡羊子個展 10/11~10/16 文芸春秋画廊 (東京)
- 谷口一芳個展 10/18~10/23 時計台ギャラリー (札幌)
- 野本醇個展 10/14~10/19 今井デパートギャラリー
- 木村訓丈個展 10/22~10/27 新館5Fホール (函館)
- 伏木田光夫個展 11/4~11/11 日本画廊 (東京)
- 森谷一油絵個展 10/1~10/31 ほし喫茶店 小品展 (砂川)
- 大雪山画廊 (旭川)
- 艾沢洋子 杉浦篤子2人展 10/末~11/始 パルコギャラリー (札幌)
- 川本ヤスヒロ個展 11/1~11/30 喫茶ミドリ (札幌)
- 千葉幸子個展 11/8~11/13 時計台ギャラリー (札幌)
- 坪野秀子個展 11/8~11/13 時計台ギャラリー (札幌)
- 高橋三加子個展 11/22~11/27 時計台ギャラリー (札幌)
- 原義行個展 11/23~11/28 大丸画廊 (札幌)
- 秋山沙走武個展 11/25~11/30 今井デパート5F (函館)
- 国松登個展 11/29~12/4 時計台ギャラリー (札幌)
- 北海道陶芸会 第三回作品展 11月 東急百貨店 山岡三秋参加 (札幌)
- 新作陶芸展 (グループ展) 12月 今井百貨店本店 山岡三秋参加 (札幌)
- 山口慧子個展 12/6~12/11 時計台ギャラリー (札幌)

道立近代美術館案内

- 世界現代ガラス展 7/17~8/29
- サマー・ミュージアム82 8/3~8/8
- 今日のイギリス美術 9/9~10/9
- 日本画にみる東西 10/16~11/14 一山種美術館所蔵品による
- 難波田龍起展 11/20~12/19
- 子どもと親の美術館'83 1/5~1/30
- 北海道の美術'8 3/2/5~2/27
- 佐藤忠良展 3/5~3/20

○第37回全道展表彰式懇親パーティ  
七月三日(土)PM6時より道新大通館にて催されました。  
招待者 二三名 出席者 一四三名でした。

○巡回展日程  
稚内展(稚内市立体育館) 7月14日~20日  
旭川展(旭川市民文化会館) 7月21日~27日  
網走展(網走市立美術館) 7月29日~8月3日  
中標津展(中標津公民館) 8月5日~9日  
斜里展(斜里町中央公民館) 8月11日~17日

住所・電話番号・呼称変更と転居

- 小野寺紀子 千〇六〇 札幌市中央区北二条東十一丁目 アーバン北二条五〇二二号 ☎〇一(二二)六九一
  - 佐野 敏夫 千〇五〇 室蘭市高砂町三丁目六八 ☎〇一(二二)六九一
  - 天野 宮蔵 千〇四一 函館市昭和二丁目二〇一七
  - 渋谷 栄一 千〇六三 札幌市西区山の手六条六丁目二番二号 ☎〇四一 函館市日吉町一丁目二五十八 ☎〇一三八(五六)〇七九
  - 中川真一郎 千〇四一 函館市日吉町一丁目二五十八 ☎〇一三八(五六)〇七九
  - 田部 準夫 千〇〇二 札幌市北区篠路八条二丁目四二二 ☎〇一(八五)四二二
- (以上の分を図録住所録に訂正して下さい)

訂正 第37回展図録訂正

・P一三八 北野六条五丁目一を北野六条五丁目一六。  
・P二〇 六行目「貨車」を「貨物」、九行目見える。時には見える時には、十七行目「その後」の「以後」、二七行目「母恋南町を母恋文化村」。  
・P二二 最後から二行目注線を「油絵」に。  
・P一四〇 水落啓三六〇水戸市を千三二〇水戸市に。  
・P一三三 艾沢洋子 P一四〇 艾沢洋子文沢洋子に。  
・P七五 題名「season(D)」を「(C)」に。作品写真が逆でした。深くお詫びいたします。  
・P六〇 題名「返花」を「風花」に。  
・P二三 題名「返花」を「風花」に。

お知らせ

●全道展地区連絡委員一部改まる  
釧路地区連絡委員 川瀬敏夫  
住所 釧路市新釧路3番16号 ☎〇八五四(二三)二八〇〇  
帯広地区連絡委員 岡沼淳一

おねがい

全道展会員、会友で病氣入院等の方を知った場合は、その病状など事務局までお知らせ下さい。

住所 河東郡音更町基不台東10丁目8 ☎〇一五五(三三)二二二九  
七月三〇日の在札会員拡大大会委員長が次年度の新任委員長が次の如く決定しました。事務局局長渡会純所に代って新事務局局長(会計)伊藤寿郎、岸本祐躬、佐藤靖、竹内豊、長谷川忠男、渋谷栄一、前野昌市、大地康雄、齊藤洪人、寺崎源治。  
事務局は八月末後任に引継ぎします。  
第24回学生美術全道展は、9月2日(木)より7日(火)まで札幌(今井デパート)で開催。作品搬入は8月29日(日)札幌市民会館。  
第37回全道展授賞者招待展主催 全道美術協会 10月18日(月)より23日(土)まで札幌大同ギャラリーに於て、今年の実賞者の新作を招待出品してもらい奨励する企画展です。  
来年度、第38回全道展の会期は58年6月29日(水)~7月10日(日)搬入は6月15日(水)~16日(木)です。

個展・グループ展の貸額様と額様製造販売・公募展の搬入・搬出の代行作品運送には是非御利用下さい(多少にかかわらず御連絡下さい)

美術展覧会会費緑・美術品扱専門店  
**北陽美術**  
〒061-24 札幌市西区手稲前田657-110  
☎ 011 (682) 6340

全道展に関するお問い合わせは次の所へ。  
全道展事務局/千〇六三札幌市西区山の手3条11丁目 ☎〇一(六三)一六〇二 後藤庸也  
北海道新聞社事務局文化全部全道展担当/千〇六〇九一札幌市中央区大通西三丁目 ☎〇一(二二)二一〇一  
●会員、会友で会費未納の方は早急小樽八六一七、池田正之助方全道美術協会宛。